

頑張る

# 農業法人

「整備された圃場（ほじょう）の保全・管理のためJAの勧めで営農組合をつくり、米や小豆などを生産してきたが、さらに地域の担い手として法人化した」と話す綾部市豊里町の農事組合法人「アグリさんが」の上田均代表（72）。

「アグリさんが」の上田均代表（72）。

大区画になった水田を生かして、水稲・小豆などの効率生産に取り組む。高齢化が進む中「地域農業の担い手として後継者育成や茶園保全などを目指したい」と意欲的だ。

同町は同市西部にあり、以前は隣接の館町、小西町とともに圃場面積が小さく、農道も狭かった。大型機械での農作業が困難で、非効率だった。1997年度から71

鈔の圃場整備事業に着手し、そのうち同町では20鈔が2005年度に完了した。小さかった圃場は、1区画が50鈔から1鈔以上となり、大型機械で効率的な作業が可能になった。

一方で高齢化や後継者不足で農業を継続していない農家も増えてきた。「整備された農地を守るろう」と、JAの働き掛けもあり、01年に営農組合を立ち上げた。預かった10鈔の農地で水稲、小豆小麦などの生産に取り組んできた。さらに地域の担い手として農地を守っていかうという機運が高まり、07年11月に同地区の農家43戸のうち33戸が出資して同法人を立ち上げた。

昔は同地区が3集落

## 農事組合法人 アグリさんが

綾部市 豊里町

### 地域担って農地守る



農地の管理・保全に取り組むアグリさんがの上田代表（左）と村上理事

で、「三ヶ（さんが）」と名を「アグリさんが」と呼ばれていたため、法人した。役員は上田代表を含めて3人。農繁期には地元

## 圃場整備生かし作業効率化

農家約10人がパートタイマーとして働く。

現在、約13鈔の農地で水稲7鈔、小豆3鈔、小麦3鈔を生産しJAに出荷している。

「法人化で作業を効率良くし、補助事業も活用して経営維持ができてい」と経理担当の村上真澄理事（69）は話す。

上田理事は「高齢化などで農地を預けたい人が増えてくるだろうが、『アグリさんが』が農地を守っていく。そのためにも、将来はハウスや露地での野菜生産や茶園管理など複合経営も行い、後継者の育成にも取り組んでいきたい」と前向きだ。

▽法人所在地 綾部市豊里町福垣108。電話 0773（47）0114。